



書庫からの便り⑨

資料室

今回は 昨年4月に入庫した大冊「Geology and Economic Minerals of Canada」第5版(Geol. Surv. Canada, Economic Geology Report No. 1)についてお知らせしましょう。これはカナダの地質調査所が発行したもので 初版は1909年 第2版が1926年 第3版が1946年 第4版が1957年に発行されたのに続く1970年の出版です(いずれも英文)。当書庫には第3版が保管されていましたので それと比較しながら カナダの同業者の業績を讀えたいと思います。

まずは本の規模から。

第3版(第2図右)は25cm×16.5cm——A5とB5の中間で 357ページのものですが 第5版(第2図左)はまさに面目一新ともいえる28.5cm×22cm——ほぼA4版 834 ページの大冊となり しかも別に付図が同大のケースに収められているという偉容に変わりました(第3図)。

第5版はまことにカラフル カナダの秋をすりこんだ真白な生地 楽しく手にとれる感じのよい装丁となっています。次に内容ですが 第5版の記載区分は13章構成 4 経済地理区分

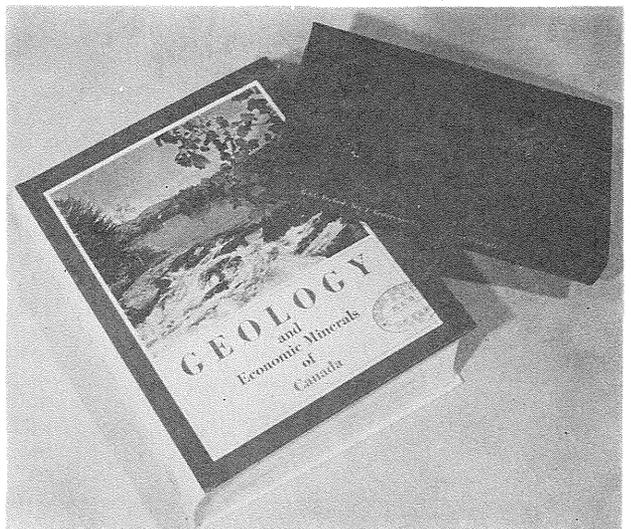
にもとづいて組み立てられ 第3版の7地理区分にもとづく9章構成を大きく書きなおしています。さらに付図が77から288 写真が66葉から133葉と多くなり 航空写真が多用され表も大幅にふえました。それだけでなく写真も付図も洗練されたものとなり 第3版の場合の野暮ったさとは比較になりません。まるで写真集や画報を手にしたような気楽ささえ感じられます。

さて肝心の記載内容を比較してみましょう。新たに起こされた章が第11章の「生層位学」と第13章の「地下水地質」で 第3版第9章の「洪積世氷成堆積層」は「第四紀層」(第12章)で一括されて内容を充実させていることはともかく 全体として鉱業経済重視の方向は変わっていませんが 地質や地質構造に関する知識のその後の発展を反映させ 定着させる努力の跡もよくうかがえます。

たとえばカナダ楯状地について記載された第3版の第



第1図 カナダ Geol. Surv. のマーク



第2図 カナダ G. S. Econ. Geol. Rept. No. 1 左 第5版 右 第3版

2章と第5版の第4章・第5章を比べてみますと 第3版の場合の地質に関する記載は鉱物資源に関する記載のページ数にして1/3弱であるのに対し 第5版の場合は地質と鉱物資源の記載を別個の章として独立させ 前者の方に後者の倍のページを与えているほどです。それでも鉱物資源の記載量が第3版の場合よりも多くなっているわけですから 第3版における地質記載の不十分さをあらためる努力は相当なものだったといえましょう。

鉱物資源の記載についていえば 新旧鉱山の盛衰と交替を痛感させられると同時に 大鉱山の記載が少し詳しくなったことや 鉱床を工業的・構成鉱物別に分類するという新味が加ってきたことは 一筆触れておきたい点です。

簡単な便りとなってしまいましたが 最後に別ケースに収められている付図について述べましょう。この付図は地質図 構造地質図 鉱床分布図 氷河分布図 経済地理図 磁気異常分布図 絶対年代値分布図 プーゲー重力異常分布図の計8図と カナダ楕状地 南東カナダ 西カナダ 北極圏地域の各構造地質対比図からなっており 前者8葉はいずれもカナダ全域にわたる500万分の1のスケールのもので 同一ケースであることは使



第3図 カナダ G. S. Econ Geol. Rept. No. 1 (第5版)の付図

用上非常に便利と思われます(第3図)。

このような出版がされるということは いずれの国でも必要でしょう。すでに出版済みであっても カナダのように版を重ねることはまことに立派だし 世界各国の関係者にとっても大きな励みになるものと期待されます。

あなたもぜひ手にして下さい。価格は本文と付図とで15ドルです。

## 新刊紹介

地下の科学シリーズ No. 21

### 花粉分析法入門

花粉分析とは 花粉そのものを分析するのではなく 花粉や胞子を含んだ堆積物(土壌 岩石 石炭など)を分解して花粉 胞子化石をとり出し その種類や数を調べた結果を 古生物学 地質学 植物学 気候学など広範囲にわたる分野の調査研究に有効に役立たせることをいうのである。最近では 海洋開発の分野で 海底堆積物の堆積環境が資源開発の問題ともからんで大きくクローズアップされ “海洋花粉学” という新語も作られており さらに自然公害ともいわれる “花粉病” の発生原因に関連しても 花粉の存在が改めて注目されるようになってきた。

本書では 豊富な図 写真を加えてこれらの問題をきわめてわかりやすく解説されており 初心者入門書として最適であり 花粉に関連する専門家の方々にとっても 20ページにわたる最近10年間の文献集も収録されており 非常に有益な書である。一読をおすすめしたい。

### ＜おもな内容＞

- I 花粉との出会い／II 花粉分析をはじめるには／
- III 花粉分析のすすめ方／IV 花粉・胞子化石の鑑定／
- V 分析の結果をまとめる／VI 花粉分析の将来／
- VII 参考文献／VIII わが国の花粉学文献集

理学博士 徳永重元著

新書版 185ページ 定価 600円

発行元 (株) ラテイス

新宿区払方町15 Tel. (03) 267-2561 (代)

発売元 (株) 丸善